

数字でみる日本のオペラ公演 2023

昭和音楽大学オペラ研究所／石田 麻子

はじめに 表1

『日本のオペラ年鑑』では、1年間におこなわれたオペラ公演のデータをまとめて、その年の公演概況を把握してきた。2023年についても同様に、タイトルを「数字でみる日本のオペラ公演 2023」と改めたうえで見ていこう。分析対象と団体区分は表1のとおりである。

視点はこれまでとほとんど変えていないが、表3でグランドオペラジャパンの構成団体を対象としたことが主な変更点となる。コロナ禍を経た日本のオペラ界がどのような変化を見せているのか、数字が物語る公演状況を整理してみたい。

表1 分析対象と上演団体の区分（○は本稿での分析対象）

	1. 国内団体	2. 教育研究団体	3. 海外団体
I：大規模会場公演＝756席以上の客席数	○	○	○
II：中・小規模会場公演＝756席未満の客席数	○	○	○
III：演奏会形式、セミ・ステージ形式等	表3で一部言及		

概況 図1・表2

上演団体数は277、総上演回数は953回と2022年に比べると微増した。大規模会場での国内団体および海外団体の上演団体数と総上演回数が増えた一方で、中・小規模会場での国内団体の上演団体数と総上演回数が減少したことが理由である。新型コロナウイルス感染症が感染症法上、2類から5類に移行したのが2023年5月8日で、社会的には対応が大きく変わったものの、オペラ公演の制作や上演がコロナ禍の影響を受け続けたことは否定できない。中・小規模会場で公演を実施していた、比較的規模の小さな団体の活動が休止するなど停滞した結果、減少しているのではないかと考えられる。

図1 総上演回数と活動団体数の推移

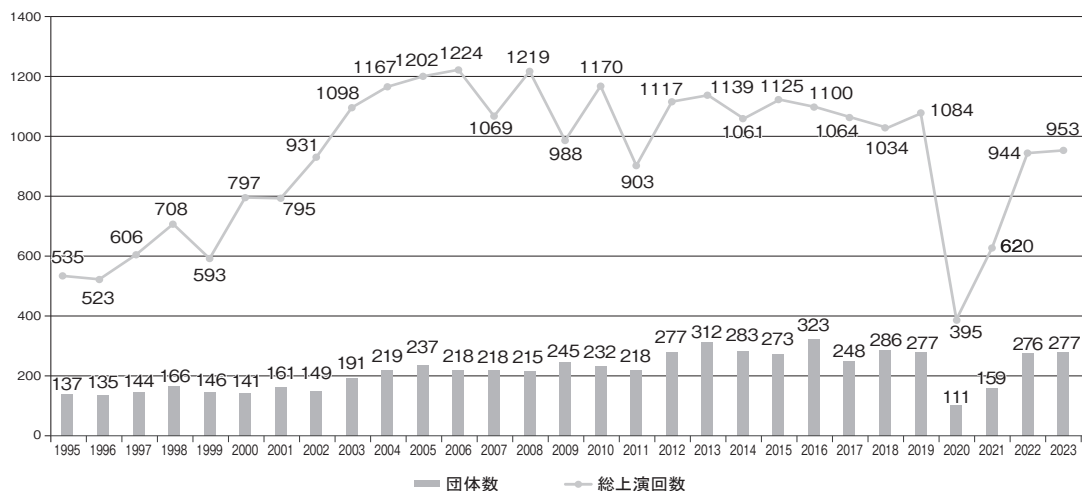


表2 2023年のカテゴリー別オペラ上演団体活動状況一覧

Ⅰ. 大規模会場 (756 席以上)			Ⅱ. 中・小規模会場 (756 席未満)			合計 (Ⅰ＋Ⅱ)		
カテゴリー	団体数	総上演回数	カテゴリー	団体数	総上演回数	カテゴリー	団体数*	総上演回数
1. 国内団体	102	350	1. 国内団体	171	536	1. 国内団体	256	886
2. 教育研究団体	9	17	2. 教育研究団体	10	18	2. 教育研究団体	17	35
3. 海外団体	4	32	3. 海外団体	0	0	3. 海外団体	4	32
合計 / 総団体数・総上演回数	115	399/953	合計 / 総団体数・総上演回数	181	554/953	合計	277	953

* 団体数の合計は、大規模会場と中・小規模会場をあわせて再度集計したもの。同一の団体が規模の異なる会場で公演した場合もあるため、Ⅰ表とⅡ表を合計した数よりも少なくなる。

国内団体 表3

これまでに「日本のオペラ公演－公演データの分析とその考察－」として掲載してきた国内団体の公演を、グランドオペラジャパンの構成団体を対象にした。いずれの団体も、大規模会場での一定回数の上演により、話題の公演を提供している。また、団体の所在地周辺の会場だけではなく、文化庁のアートキャラバン事業により、各地の大規模館で主催公演を実施して公演回数を重ねたことも特徴の一つとなった。表3に掲載の団体のうち、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは、主催公演に加えて劇場間の全国共同制作オペラなども記載している。

表3 2023年グランドオペラジャパン構成団体（正会員）の公演活動データ*1

団体名	作品名	Ⅰ. 大規模会場		Ⅱ. 中・小規模会場		合計	
		上演回数	合計	上演回数	合計		
東京二期会	フィガロの結婚	2	21【2】	0	0	21【2】	
	トゥーランドット	4					
	椿姫	5					
	ドン・カルロ	6					
	午後の曳航	4					
	【平和の日】（セミ・ステージ形式）	【2】					
藤原歌劇団*2	オテッロ	2	14	0	10	28	
	トスカ	3					
	劇場のわがままな歌手たち	2					
	蝶々夫人	3					
	二人のフォスカリ	2					
	ラ・ボエーム	2					
	パリのジャンニ	0					1
	カルメン						1
	助けて、助けて、宇宙人がやって来た！						8
日本オペラ協会*2	源氏物語	2	4	0	0		
	夕鶴	2					
関西二期会	ドン・ジョヴァンニ	1	7	0	4	11	
	魔笛	3					
	カルメン	3					
	ジュリオ・チェーザレ	0					2
	ヘンゼルとグレーテル						2
関西歌劇団	偽の女庭師	1	3	0	1	4	
	サンドリヨン	2					
	泣いた赤おに	0		1			
滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール	森は生きている	6	19【2】	0	7	26【2】	
	【ニュルンベルクのマイスター・ジンガー】 （セミ・ステージ形式）	【2】					
	フィガロの結婚	6					
	こうもり*3	3					
	天国と地獄	4					
	泣いた赤おに*4	0					7
団体合計上演回数 / 総上演回数	—	—	68【4】/ 399	—	22/554	90【4】/ 953	

*1 各団体ともにハイライト公演は含めていない。セミ・ステージ形式は【 】で掲載した。各団体が設置している研修所による公演は含めていない。

*2 藤原歌劇団と日本オペラ協会は、（公財）日本オペラ振興会内のオペラ団体。

*3 2023年度全国共同制作オペラ公演。

*4 びわ湖ホール声楽アンサンブルの《泣いた赤おに》公演も含めている。

新国立劇場 表4-1・4-2

新国立劇場は、4つの新制作舞台（うち2つはダブルビル）を含めて、例年同様の公演回数を確保している。札幌での《サロメ》、京都での「高校生のためのオペラ鑑賞教室2023」《魔笛》など、劇場外公演も実施している。

表4-1 2023年新国立劇場主催のオペラ公演（新国立劇場オペラパレスおよび中劇場：大規模会場公演、共催者がある場合は特記）

上演月	作品名	作曲家名	上演回数	公演タイトル	特記事項
1～2月	タンホイザー	R. ワーグナー	5	新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ	全3幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
2月	ファルスタッフ	G. ヴェルディ	4	令和3年度補正予算文化庁子供文化芸術活動支援事業（劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業） 新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ	全3幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
3月	ホフマン物語	J. オフエンバック	4	新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ	全5幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
4月	アイーダ	G. ヴェルディ	7	新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ 開場25周年記念公演	全4幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
5～6月	リゴレット	G. ヴェルディ	6	新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ	新制作 / 全3幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
5～6月	サロメ	R. シュトラウス	4	新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ	全1幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
6～7月	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	5	新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ 開場25周年記念公演	全4幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
7月	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	6	令和5年度文化庁日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業（委託型）」 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2023	主催：（公財）新国立劇場運営財団 / （独）日本芸術文化振興会 / 文化庁 全4幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
10月	修道女アンジェリカ	G. プッチーニ	4	令和5年度（第78回）文化庁芸術祭 オープニング・オペラ 国際音楽の日記念 新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ	主催：文化庁 / 新国立劇場 新制作 / 全1幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
10月	子どもと魔法	M. ラヴェル	4	令和5年度（第78回）文化庁芸術祭 オープニング・オペラ 国際音楽の日記念 新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ	主催：文化庁 / 新国立劇場 新制作 / 全2部 / 日本語・英語字幕付原語上演
11月	シモン・ボツカネグラ	G. ヴェルディ	5	令和5年度文化庁日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業（委託型）」 新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ	主催：（公財）新国立劇場運営財団 / （独）日本芸術文化振興会 / 文化庁 新制作 / プロローグ付全3幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
12月	こうもり	J. シュトラウスⅡ世	4	新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ	全3幕 / 日本語・英語字幕付原語上演
	11 作品	7 人	58/399	—	—

表4-2 2023年新国立劇場制作のオペラ公演（他会場での公演：大規模会場公演）

上演月	作品名	作曲家名	上演回数	会場 / 公演タイトル	特記事項
6月	サロメ	R. シュトラウス	2	札幌文化芸術劇場 hitaru / 令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）） （独）日本芸術文化振興会	主催：札幌文化芸術劇場 hitaru（札幌市芸術文化財団） 全1幕 / 字幕付原語上演
10月	魔笛	W.A. モーツァルト	2	ロームシアター京都メインホール / 令和5年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2023	主催：京都市 / ロームシアター京都（（公財）京都市音楽芸術文化振興財団） / 新国立劇場 全2幕 / 字幕付原語上演
—	2 作品	2 人	4/399	—	—

教育研究団体 表5

教育研究団体には、芸術系大学等の教育機関および国内団体の運営する付属研修所の公演が含まれる。カリキュラムを組んで若手人材を育成する活動が、2020年以降のコロナ禍において大変な苦労をしたことは、他団体と同様だった。ようやく本来のカリキュラム運営へと回復する基調にあると言えるだろう。

表5 2023年の教育研究団体公演活動データ*

団体名	作品名	作曲家名	Ⅰ. 大規模会場		Ⅱ. 中・小規模会場		実施公演
			上演回数	合計	上演回数	合計	
大阪音楽大学	コジ・ファン・トゥッテ／ 恋人たちの学校	W.A. モーツァルト	2	4	0	2	6
	魔弾の射手	C.M.v. ウェーバー	1				
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツァルト	1				
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	1				
	魔笛	W.A. モーツァルト	0				
新国立劇場 オペラ研修所	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	3	3	0	0	3
国立音楽大学	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	2	2	0	1	3
	ランメルモールのルチア	G. ドニゼッティ	0		1		
昭和音楽大学	愛の妙薬	G. ドニゼッティ	2	2	0	0	2
東京藝術大学	コシ・ファン・トゥッテ～女 はみんなこうしたもの～ある いは～恋人たちの学校～	W.A. モーツァルト	2	2	0	0	2
5 団体	7 作品	3 人	—	13/399	—	3/554	16/953

* 大規模会場で、教育研究型公演を2回以上開催した団体。合計および50音順の掲載。記念イベント、学生主催公演や部活動の公演、有志による公演などは含まない。

海外団体 表6

海外団体の公演は、「拠点型公演」(歌劇場による4都市以下での公演開催)や「巡回型公演」(歌劇場による5都市以上での公演開催)、「その他」(音楽祭やグループなどの公演)に分類している。これらはいずれも減少の一途をたどっていたうえに、2020年のコロナ禍による来日中止などの影響を受けて、なかなか再開されなかった。2023年は、イタリアから3つの歌劇場、ウクライナから1つの歌劇場が来日しており、少し回復傾向にあると言ってもよいだろうか。「拠点型公演」はローマ歌劇場、「巡回型公演」はイタリアのパレルモ・マッシモ劇場、ボローニャ歌劇場、ウクライナ国立歌劇場がおこなった。いずれも《トスカ》《椿姫》などの人気演目を上演したことが特徴である。コロナ禍後久しぶりの大型の海外歌劇場公演となり、多くの来場者を迎えていたのは印象深い。

表6 2023年海外団体*1の公演活動データ(Ⅰ. 大規模会場)

形態*2	上演月	国名	劇場名	作品名	作曲家名	上演回数	合計 / 総上演回数	開催都市数*3
巡回	1月	ウクライナ	ウクライナ国立歌劇場	カルメン	G. ビゼー	7	7	6
巡回	6月	イタリア	パレルモ・マッシモ劇場	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	5	9	4
				椿姫	G. ヴェルディ	4		3
拠点	9月	イタリア	ローマ歌劇場	椿姫	G. ヴェルディ	3	7	1
				トスカ	G. プッチーニ	4		2
巡回	11月	イタリア	ボローニャ歌劇場	トスカ	G. プッチーニ	6	9	5
				ノルマ	V. ベッリーニ	3		2
—	—	2ヶ国	4団体	5作品	4人	32	32/953	10都市

*1 劇場名は、主催者表記に準じる。

*2 「拠点」: 1回の来日で、4都市以下での公演を行う「拠点型」の歌劇場公演。

「巡回」: 1回の来日で、5都市以上で公演を行う「巡回型」の歌劇場公演。

*3 開催都市は、東京23区を1都市として、その他は市単位でカウントする。

例: 東京文化会館、府中の森芸術劇場での開催の場合、横浜市と横須賀市で開催の場合などは、異なる2都市とする。

作曲家と作品 表7・表8-1・8-2・表9-1・9-2

国内外の作曲家と作品の数字をまとめており、例年同様の顔ぶれ、作品が並んでいる。

とくにプッチーニは大規模会場で作品上演される機会が多く、《ラ・ボエーム》は新国立劇場、小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX、藤原歌劇団、バレルモ・マッシモ劇場など、《トスカ》は藤原歌劇団、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場などがとりあげている。《カルメン》は関西二期会、ウクライナ国立歌劇場のほか、全国の市民オペラや鑑賞教室などでの上演がおこなわれた。《こうもり》は新国立劇場、全国共同制作公演のほか、各地の市民オペラなどでとりあげられて、上位となった。

日本人作曲家・作品では、林光作曲《森は生きている》が複数の団体の上演により、56回と群を抜いており、レパートリーとして定着していることが見て取れる。

表7 オペラ作品、作曲家別の上演回数

	海外の作品			日本の作品			合計		
	作曲家数	作品数	上演回数	作曲家数	作品数	上演回数	作曲家数	作品数	総上演回数
2004年	49人	99作品	753回	43人	61作品	414回	92人	160作品	1167回
2005年	57人	111作品	826回	50人	60作品	376回	107人	171作品	1202回
2006年	47人	100作品	800回	50人	71作品	424回	97人	171作品	1224回
2007年	55人	105作品	721回	41(46)人	59作品	352回	96(101)人	164作品	1073回
2008年	50(51)人	107作品	782回	51(52)人	70作品	437回	101(103)人	177作品	1219回
2009年	49(50)人	99作品	653回	48(49)人	48作品	335回	97(99)人	147作品	988回
2010年	42(44)人	86作品	654回	41人	59作品	516回	83(85)人	145作品	1170回
2011年	38人	88作品	530回	34(36)人	51作品	373回	72(74)人	139作品	903回
2012年	51(52)人	97作品	636回	55(56)人	75作品	481回	106(108)人	172作品	1117回
2013年	41(45)人	99作品	675回	56(59)人	83作品	464回	97(104)人	184作品	1139回
2014年	44人	87作品	607回	50(52)人	84作品	454回	94(96)人	171作品	1061回
2015年	44(45)人	89作品	690回	58(61)人	84作品	435回	102(106)人	173作品	1125回
2016年	51(53)人	99作品	669回	52人	86作品	431回	103(105)人	185作品	1100回
2017年	41人	85作品	607回	54人	83作品	458回	95人	168作品	1065回
2018年	44人	85作品	640回	53人	84作品	394回	97人	169作品	1034回
2019年	50人	103作品	658回	54人	85作品	426回	104人	188作品	1084回
2020年	24人	51作品	179回	27人	41作品	216回	51人	92作品	395回
2021年	38(39)人	74作品	337回	36人	51作品	283回	74(75)人	125作品	620回
2022年	44(45)人	94作品	488回	58(62)人	86作品	456回	102(107)人	180作品	944回
2023年	41人	89作品	549回	55人	81作品	404回	96人	170作品	953回

* () 内は、共作者・編曲者等を入れた場合の数字。同一人物が作曲や編曲で登場する場合は、1人としてカウント。

表 8-1 2023年に日本で作品が上演された海外の作曲家（全 41 人中、上位 9 人）

No.	作曲家名	上演回数*
1	G. プッチーニ	111
2	W.A. モーツァルト	87
3	G. ヴェルディ	83
4	G. ドニゼッティ	36
4	G. ビゼー	36
6	J. シュトラウスⅡ世	27
7	G.C. メノッティ	25
8	P. マスカーニ	19
9	J. オッフエンバック	10
合計 / 総上演回数	—	434/953

*同数の場合、大規模会場での公演数順で掲載した。

表 8-2 2023年に日本で上演された海外のオペラ作品

(全 89 作品中、大規模会場での上演実績上位の 10 作品、タイトルは便宜的に統一)

No.	作品名	作曲家名	I. 大規模会場	Ⅱ. 中・小規模会場	合計
1	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	30	11	41
2	カルメン	G. ビゼー	17	18	35
3	こうもり	J. シュトラウスⅡ世	19	8	27
4	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	14	10	24
5	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	10	13	23
6	魔笛	W.A. モーツァルト	9	13	22
7	愛の妙薬	G. ドニゼッティ	8	11	19
8	椿姫	G. ヴェルディ	16	2	18
8	トスカ	G. プッチーニ	13	5	18
10	カヴァレリア・ルスティカーナ	P. マスカーニ	10	7	17
合計 / 総上演回数	—	—	146/399	98/554	244/953

表 9-1 2023年に国内で上演された日本のオペラ作品（I. 大規模会場） *大規模会場で、上演回数 8 回以上の作品。

No.	作品名	作曲家名	上演回数	上演団体数	公演団体	備考
1	森は生きている	林 光	23	3	オペラシアターこんにゃく座 / 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール / 兵庫県立芸術文化センター	中・小規模会場で 33 回公演
2	さよなら、ドン・キホーテ!	萩 京子	14	1	オペラシアターこんにゃく座	中・小規模会場で 4 回公演
3	ルドルフとイッパイアッテナ	信長 貴富	8	1	オペラシアターこんにゃく座	中・小規模会場で 20 回公演
3	泣いた赤鬼	松井 和彦	8	3	(公財) 神戸市民文化振興財団 / アーツ・カンパニーほか	中・小規模会場で 15 回公演
合計 / 総上演回数			—	53/399	—	—

表 9-2 2023年に国内で上演された日本のオペラ作品（Ⅱ. 中・小規模会場）

*中・小規模会場で、上演回数 20 回以上の作品。

No.	作品名	作曲家名	上演回数	上演団体数	公演団体	備考
1	タンゲーまほうをかけられた舌ー	萩 京子	34	1	オペラシアターこんにゃく座	大規模会場で 1 回公演
1	トラの恩返し	李 在浩	34	1	オペレッタ劇団ともしび	—
3	森は生きている	林 光	33	2	オペラシアターこんにゃく座 / 名古屋二期会	大規模会場で 23 回公演
4	ルドルフとイッパイアッテナ	信長 貴富	20	1	オペラシアターこんにゃく座	大規模会場で 8 回公演
合計 / 総上演回数			—	121/554	—	—

都道府県・地域・会場規模別上演回数 表10・表11・図2・表12

都道府県別上演回数を見ると、東京、神奈川、愛知、兵庫、埼玉などが上位だったのは例年通りである。空白県は秋田、福井、鳥取の3県となった。中でも秋田県は、2022年にもオペラ公演がおこなわれておらず、地域におけるオペラ体験格差が明らかになっている。

大規模会場での公演は、全国137カ所でおこなわれ、中・小規模会場では、学校の体育館での公演などを含めて全国339カ所で開催された。いずれも、2022年の122カ所、305カ所から数字を伸ばしており、この点ではコロナ禍からの回復が感じられる。

大規模会場のうち開催回数の上位館には、舞台芸術の上演を主たる目的に建設され、数々の名演を生んできた会場が並んだ。表12にあげた会場は3つに分類できそうだ。

まず、戦後各地に整備されていった文化会館、市民会館といった名称を冠した会場である。表12では、東京文化会館、神戸文化ホール、JMS アステールプラザなどが該当する。次に、日生劇場や私立大学が設置したテアトロ・ジーリオ・ショウワのような民間や教育機関の会場である。さらに、新国立劇場、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センター、愛知県芸術劇場、札幌文化芸術劇場 hitaru は、オペラやバレエなど大規模な舞台芸術上演を目的にした、多面舞台を備えた大規模館である。これらの会場で2023年も多くの上演が生み出された。

まとめ

総上演回数をはじめとする活動状況を数字から見えていくと、多くの団体がコロナ禍前と同様の公演活動を復活させたように見て取れる。また一旦停止していた来日する海外団体数と公演回数も一定の回復基調にあるかのようだ。それらの公演に来場する観客が会場を埋めて、一時期のような盛り上がりを見せている公演もあれば、観客が十分に戻らないという声もある。それは趣味の多様化に加えて、コロナ禍以降、各団体がオンライン配信にも力を入れていて、鑑賞方法の選択肢が増えたことも一因かもしれない。しかし、実演あつての映像配信であり、会場での熱量の共有こそが舞台芸術鑑賞の醍醐味である。そうした感動体験を国内各地で提供できるような日本のオペラ界であってほしい。

表 10 2023年の都道府県別上演回数

No.	都道府県名	国内団体		教育研究団体		海外団体		合計		
		団体数	上演回数	団体数	上演回数	団体数	上演回数	団体数	上演回数	上演回数順位
1	北海道	8	22	0	0	0	0	8	22	8
2	青森	3	4	0	0	0	0	3	4	34
3	岩手	3	5	0	0	0	0	3	5	28
4	宮城	4	6	0	0	0	0	4	6	23
5	秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	—
6	山形	5	19	0	0	0	0	5	19	12
7	福島	5	5	0	0	0	0	5	5	28
8	茨城	2	4	0	0	0	0	2	4	34
9	栃木	5	16	0	0	0	0	5	16	13
10	群馬	6	9	0	0	3	3	9	12	17
11	埼玉	24	39	0	0	0	0	24	39	5
12	千葉	11	20	0	0	0	0	11	20	11
13	東京	108	321	3	8	4	16	115	345	1
14	神奈川	25	79	3	5	1	1	29	85	2
15	新潟	4	5	0	0	0	0	4	5	28
16	富山	2	3	0	0	0	0	2	3	39
17	石川	2	2	0	0	0	0	2	2	41
18	福井	0	0	0	0	0	0	0	0	—
19	山梨	4	5	0	0	0	0	4	5	28
20	長野	4	8	0	0	1	1	5	9	19
21	岐阜	7	16	0	0	0	0	7	16	13
22	静岡	5	9	1	1	1	1	7	11	18
23	愛知	14	52	3	8	3	3	20	63	3
24	三重	4	5	0	0	0	0	4	5	28
25	滋賀	5	19	0	0	2	2	7	21	10
26	京都	9	18	2	4	0	0	11	22	8
27	大阪	17	27	1	6	3	3	21	36	6
28	兵庫	18	44	2	2	0	0	20	46	4
29	奈良	3	6	0	0	0	0	3	6	23
30	和歌山	5	7	0	0	1	1	6	8	21
31	鳥取	0	0	0	0	0	0	0	0	—
32	島根	4	6	0	0	0	0	4	6	23
33	岡山	4	12	0	0	1	1	5	13	15
34	広島	10	29	0	0	0	0	10	29	7
35	山口	2	7	0	0	0	0	2	7	22
36	徳島	3	4	0	0	0	0	3	4	34
37	香川	2	3	0	0	0	0	2	3	39
38	愛媛	3	4	0	0	0	0	3	4	34
39	高知	1	1	0	0	0	0	1	1	43
40	福岡	4	13	0	0	0	0	4	13	15
41	佐賀	2	4	0	0	0	0	2	4	34
42	長崎	3	5	1	1	0	0	4	6	23
43	熊本	4	6	0	0	0	0	4	6	23
44	大分	2	5	0	0	0	0	2	5	28
45	宮崎	1	2	0	0	0	0	1	2	41
46	鹿児島	3	9	0	0	0	0	3	9	19
47	沖縄	1	1	0	0	0	0	1	1	43
合計	—	—	886	—	35	—	32	—	953	—

表 11 2023 年の都道府県別・地域別、公演会場規模別分布

都道府県名	Ⅰ. 大規模会場		Ⅱ. 中・小規模会場		上演回数比率	地域	
	会場数	上演回数	会場数	上演回数	総上演回数		
北海道	2	7	8	15	6.40%	北海道・東北	
青森	2	2	1	2			
岩手	1	2	2	3			
宮城	1	1	4	5			
秋田	0	0	0	0			
山形	2	4	15	15			
福島	3	3	2	2			
地域合計	11	19	32	42	61		
茨城	0	0	4	4	54.67%	関東	
栃木	3	11	4	5			
群馬	6	9	3	3			
埼玉	14	19	17	20			
千葉	2	2	15	18			
東京	27	153	94	192			
神奈川	14	25	30	60			
地域合計	66	219	167	302	521		
新潟	2	2	3	3	11.96%	中部・甲信越	
富山	0	0	2	3			
石川	1	1	1	1			
福井	0	0	0	0			
山梨	1	2	3	3			
長野	4	8	1	1			
岐阜	3	5	8	11			
静岡	6	9	2	2	15.11%	関西	
愛知	5	16	19	47			
地域合計	22	43	39	71	114		
三重	0	0	5	5	15.11%		関西
滋賀	2	19	1	2			
京都	3	7	9	15			
大阪	4	17	15	19			
兵庫	4	24	14	22			
奈良	2	5	1	1			
和歌山	3	5	2	3			
地域合計	18	77	47	67	144		
鳥取	0	0	0	0	7.03%	中国・四国	
島根	2	3	2	3			
岡山	2	5	2	8			
広島	5	11	10	18			
山口	0	0	6	7			
徳島	1	3	1	1			
香川	1	3	0	0			
愛媛	2	3	1	1	4.83%	九州・沖縄	
高知	0	0	1	1			
地域合計	13	28	23	39	67		
福岡	1	4	9	9	4.83%		九州・沖縄
佐賀	0	0	4	4			
長崎	2	2	4	4			
熊本	1	2	4	4			
大分	0	0	4	5			
宮崎	1	2	0	0			
鹿児島	2	3	5	6			
沖縄	0	0	1	1	46	—	
地域合計	7	13	31	33			
合計	137	399	339	554	953	—	

同一館内の複数の会場、同一大学内の複数の会場は、規模別に 1 カ所とした。

例：東京文化会館大ホールは大規模会場で 1 カ所、東京文化会館小ホールは中・小規模会場で 1 カ所。

地域別上演回数の合計で上位 3 地域に背景色をつけている。

図2 地域別総上演回数推移（単位・回）

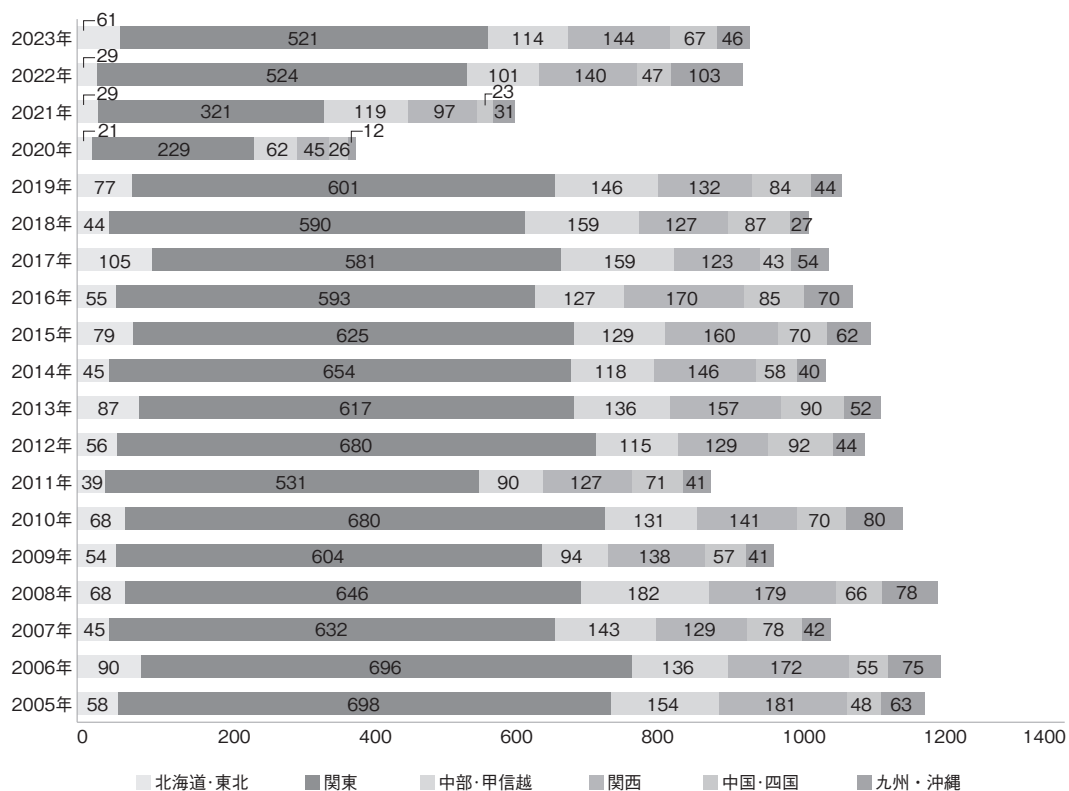


表 12 2023 年の会場別総上演回数 (Ⅰ. 大規模会場で 6 回以上公演を開催した会場。【 】内は同一施設内のⅡ. 中・小規模会場)

順位	都道府県	会場名	国内団体	教育研究団体	海外団体	小計	総上演回数 ^{*1}	客席数(席) ^{*2}
1	東京都	新国立劇場オペラ劇場	60	0	0	60	63	1,814
		新国立劇場中劇場	0	3		3		1,038
2	東京都	東京文化会館 大ホール	14	0	16	30	30【6】	2,303
		東京文化会館 小ホール	【6】		0	【6】		【649】
3	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール	2	0	2	4	18	1,848
		滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール	14		0	14		804
4	兵庫県	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール	8	1	0	9	13	2,001
		兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール	4	0		4		800
5	東京都	日生劇場	11	0	0	11	11	1,334
6	愛知県	愛知県芸術劇場大ホール	6	0	3	9	9	2,480
6	栃木県	あしかがフラワーパークプラザ (足利市民プラザ) 文化ホール	9	0	0	9	9	826
8	神奈川県	テアトロ・ジーリオ・ショウワ	6	2	0	8	8	1,367
9	兵庫県	神戸文化ホール大ホール	5	0	0	5	7	2,043
		神戸文化ホール中ホール	2			2		904
10	広島県	JMS アステールプラザ大ホール	6	0	0	6	6【2】	1,204
		JMS アステールプラザ多目的スタジオ	【2】			【2】		【224】
10	北海道	札幌文化芸術劇場 hitaru	6	0	0	6	6	2,302
合計 / 総上演回数		—	153【8】	6	21	180【8】	180【8】 / 399【554】	—

* 1 大規模会場での上演回数に加えて、併設する中・小規模会場の上演回数を【 】で記載した。

* 2 各会場の 1 回あたりの客席数は、オーケストラピット設営の有無、使用形式にかかわらず、最大値とした。また、同じ公演数の場合、座席数の多い会場から記載している。